

## 川崎哲也\*: ブコウマメザクラについて

Tetuya KAWASAKI\*: On *Prunus incisa* Thunb.var. *bukosanensis* (Honda) Hara

ブコウマメザクラは、秩父武甲山およびその西北方に続く白石山、二子山、叶山の石灰岩地帯だけに、遺存的に生じるサクラである。現在までのところ、マメザクラが古い時代にこの地方に隔離されて変化したものと考えられている。基準標本および原記載が成葉だけに關するものであるためか、従来花の性質に關しては、あまり注意されていなかった。いま、ブコウマメザクラ、マメザクラおよびキンキマメザクラの花の性質を、多数個体について比較検討してみた結果、つぎのようなことがわかった。

1. ブコウマメザクラにおいては、花卉の色および花卉の形、大きさ等の変化が多いが、これらを考慮に入れてもなお、大きさが一般的にみてマメザクラよりはずっと小形で、キンキマメザクラにほぼひとしく、その他の性質もキンキマメザクラにより近い。

2. がく筒の形が、マメザクラでは太くて短い筒状であるのにくらべて、ブコウマメザクラでは、キンキマメザクラに似て非常に細長い筒状であり、個体によっては、キンキマメザクラとほとんど見分けがつかない。

3. マメザクラの雄ずいは長く、がく筒とほぼ同長であるが、キンキマメザクラとブコウマメザクラの雄ずいは、ともにがく筒よりもはるかに短く、時にがく筒の2分の1よりも短いことがある。

4. マメザクラのがく片は、通常がく筒の2分の1またはそれ以上の長さがあるが、キンキマメザクラとブコウマメザクラでは、ともにがく筒の長さの2分の1よりもはるかに短い。

5. ブコウマメザクラとキンキマメザクラでは、雌ずいが長く突出する場合が多いが、マメザクラでは最長雄ずいの先端と柱頭とが同位置にあることが多い。

以上の結果からみて、マメザクラとブコウマメザクラは、花の形態に關してかなりの差があるが、ブコウマメザクラとキンキマメザクラでは、基本的にはほとんど相異が認められない。そこで、環境の影響を受けやすい葉の形態よりも、変化しにくい花部の形態を重要視すれば、ブコウマメザクラは、マメザクラよりキンキマメザクラに、より近縁であると考えられる。さらに、この三者の分布の地理的条件を考慮に入れる

\* 浦和市

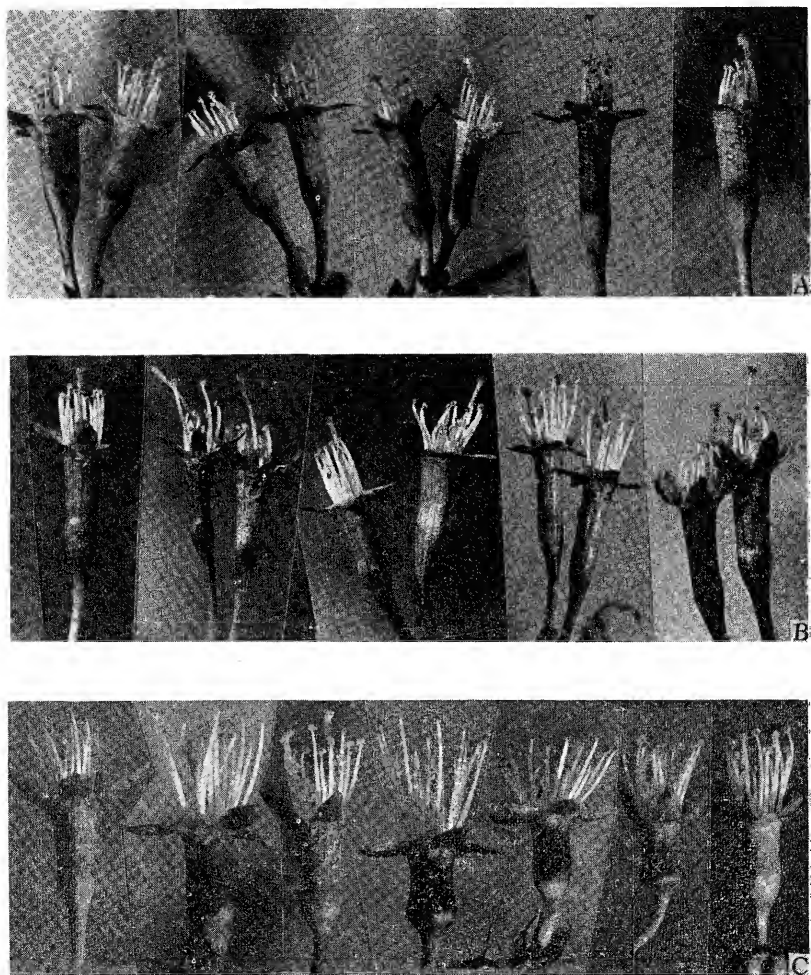


Fig. 1. Flowers without petals.

A. *Prunus incisa* var. *bukosanensis*.

B. *Prunus incisa* var. *kinkiensis*.

C. *Prunus incisa*.

と、ブコウマメザクラは、キンキマメザクラがかつて現在よりも東方および南方に広い分布域を持っていた時の名残りであり、マメザクラは、より新しい時代にそれから出現したとの考えも、また成立ち得ると思われる。